

令和6年度 学校評価報告書

小樽市立奥沢小学校
校長 堀 智行

【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価 学校の自己評価に対し、以下の基準で評価
A: 100%以上 ◎: 適切である
B: 80%以上100%未満 ○: おおむね適切である
C: 80%未満 △: 適切でない

【学校関係者評価】

1 本年度の重点目標

みんな笑顔で ぽっかぽか 進んで行動 おくさわの子

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方針

小樽市教育推進 計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校 関係者 評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力 の育成	確かな学力 の育成	「国語・算数がわかる」と回答する児童 の肯定的割合を90%以上にする。	B	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善 に取り組んできた。「国語や算数がわかる」と肯定的回答をした 児童はそれぞれ84.4%、82.0%であり、目標を下回った。より 主体的な学びを促す授業改善に取り組んでいく。	○
	特別支援教育 の充実	定期的な校内支援委員会や児童の 実態交流を年5回以上行う。	A	・校内支援委員会や児童の実態交流を9回実施した。また、特 別支援学級に在籍する児童・通級に通う児童の個別指導計画 作成率100%、通常学級に在籍する支援が必要な児童の実態 や支援の方法等を記した計画表作成率は100%である。	◎
	国際理解教育 の充実	「外国語(活動)が好き」と回答する児童 の肯定的割合を85%以上にする。	B	ALTや中学校教諭による専科指導を通して、外国語活動や外 国語指導の充実にも努めた。「外国語が好き」と回答した児童が 68.0%であり、目標達成できなかったが、今後もコミュニケー ションをとることの楽しさを感じられる取組を進めていく。	◎
	理数教育 の充実	「算数が好き」と回答する児童の肯定 的割合を80%以上にする。	B	校内研修に位置付け、算数の授業研究を年間を通して行っ た。算数が好きと回答した児童が70.9%であり、目標には到達 できなかった。「わかる・楽しい」を実感できる授業改善を一層 充実させていく。	◎
	情報教育 の充実	「インターネット等の利用に関する ルールを決めている」と回答する保護 者の割合を80%以上にする。	A	外部講師を招き、全学年で情報モラル教室を実施した。今後も 日常的な指導を通して、SNS等の活用に対する情報モラル意 識の向上を図っていく。「ルール」を決めていると肯定的回答を する保護者は83.3%であり、目標を達成することができた。	◎
	キャリア教育 の充実	「将来の夢や目標をもっている」と回 答する児童の肯定的割合を80%以上 にする。	A	様々な職業・分野で活躍する外部講師を招聘する機会を増やし、 児童の興味や関心、意欲を喚起しながら充実を図ってきた。 「夢や目標を持っている」と肯定的回答する児童は83.9% であり、目標を達成することができた。	◎
改善方針		今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国語・算数ともに全国平均を上回ったが、学力については学年によってもばらつきが見られるため、効果的な学習支援を配置し補充的な学習に重点をおくとともに、主体的に学ぶ授業改善を進めていく。特に算数については、校内研修を充実させ、「算数が好き」と回答する児童の割合を80%以上を目指していく。また、国際理解教育については、外国語活動及び外国語において、コミュニケーションをとることがより楽しくなるようALT等を積極的に活用を図るなど、授業づくりを工夫していく。			
学校関係者評価 委員による意見		概ねA評価になっていることから、先生方の頑張りがうかがえる。目標達成に向けては、学力等の他に「理解できる」や「好き」という意識をもってもらふ必要があるため、ただ教えるのではなく、子どもたち一人一人に対するアプローチの仕方の工夫が必要である。			
2 豊かな心 の育成	道徳教育 の充実	「友だちのよいところを見つけようとして いる」と回答する児童の肯定的割合 を85%以上とする。	A	教師が率先して児童のよさを捉えることに心がけるとともに、互 いを認め合う機会を教育活動の中で意図的に設定してきた。 「友だちのよいところを見つけようとしている」と肯定的回答をした 児童の割合は85.0%であり、目標達成することができた。	◎
	ふるさと教育 の充実	外部講師や地域の施設等を活用した ふるさと小樽に関する学習を全学年1 回以上行う。	A	生活科や社会科、総合的な学習の時間において、地域の施設 探検や工場見学を行うとともに、博物館学芸員や地域の方を 招聘しての授業の実施等、ふるさと小樽に関する学習を各学 年1回以上行うことができた。	◎
	読書活動 の推進	読書を全くしない児童の割合を15% 以下にする。	B	司書教諭や図書館司書、学校支援ボランティア、児童会図書 委員会が中心になって読書環境を整え、読書習慣を育む活動 を行った。読書をほとんどしないと回答した児童は17.1%であ り、若干目標に到達しなかった。今後は、家庭と連携した取組 の工夫を図っていく。	○
	体験活動 の推進	ボランティア活動や体験活動を全学 年1回以上行う。	A	児童会中心に募金活動や校舎内外のごみ拾い等に取り組ん だ。また、生活科探検や社会科見学、総合的な学習の時間の 探究活動を通じて、各学年で体験活動を1回以上実施すること ができた。	◎
	コミュニケーション 能力の育成	対話を意識した授業づくりをしている と回答する教師の肯定的割合を85% 以上にする。	A	各教科でペアやグループ交流、自由交流を取り入れた授業に 積極的に取り組んだ。自己評価では94.8%の教員が向上した と肯定的回答しており、今後も継続的な指導を進めていく。	◎
	いじめの防止や 不登校児童生 徒の支援の充実	「学校が楽しい」と回答する児童の肯定 的割合を90%以上にする。	A	特別の教科道徳を中心に、全教育活動を通じていじめのない 楽しい学校づくりを目指し指導を重ねてきた。「学校が楽しい」 と回答する児童の肯定的割合は90.7%であり、目標を達成す ることができた。	◎
改善方針		「褒める、認める、価値付ける」取組を継続し、児童の自己肯定感を高めていく。自分に自信がもてるようになると、他者へのかかわり方が変わり、学校へ通うことも楽しくなると思われる。「いじめ見逃し0」や「不登校0」の取組を継続しながら、児童一人一人に居場所があり魅力ある学校づくりを推進していく。また、読書活動については、目標達成に向け粘り強く働きかけていく。			
学校関係者評価 委員による意見		・自己肯定感は、現在とても大事な子どものあり方として注目されている。どんな活動を行えば豊かな心の育成に繋がるのか、今回は読書がB評価であったが、家庭や地域も協力できることがあれば協力していきたい。 ・読書環境について、児童に本を読む楽しさを広め伝えることは良いと思うが、保護者が本を読んでいる姿を見せることが大切だと思う。大人が本を読むような取組を進めることも重要である。			

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「体育が楽しい」と回答する児童の肯定的割合を90%以上にする。	A	新体力テストで課題が見られる種目を複数回実施し、児童の運動に対する意欲付けを行った。また、十分な運動量を確保する授業改善を進め、休み時間は外で体を動かすように全校で取り組んだ。体育が好きと肯定的回答をした児童は97.5%であり、目標を達成することができた。	◎
		食育の推進	朝食を食べてこない児童の割合を5%以下にする。	A	食育の授業や日常の指導を通して、朝食を食べることの重要性を指導してきた。保護者へも協力を呼びかけ連携を図りながら進めてきたことで、「朝食を食べてこない」と回答する児童は2.4%まで減少し、目標を達成することができた。	◎
		健康教育の充実	数値目標:「早寝・早起き・朝ごはん」など、基本的な生活習慣が身に付いている」と回答する保護者の肯定的割合を90%以上にする。	B	基本的な生活習慣が身に付くよう啓発活動を行い、長期休業中には生活リズムチェックシートを活用した基本的な生活習慣づくりにも努めてもらったが、「基本的な生活習慣が身に付いている」と肯定的回答をする保護者は82.4%であり、目標に到達しなかった。改善傾向は見られるが、今後も粘り強く保護者の働きかけを行っていく。	○
改善方針		体力向上については、体力向上改善プランを見直し、他校の優れた実践を取り入れながら児童の体力向上を図っていく。基本的な生活習慣の育成や「早寝・早起き・朝ごはん」等の健康教育の充実については、改善傾向が見られるもののまだ十分とは言えない。家庭での生活習慣に関わることであり、懇談会や啓発資料の配付、PTAと連携する取組等を通して、ねばり強く継続的に保護者へ働きかけていく。				
学校関係者評価委員による意見		基本的な生活習慣の定着は、家庭との連携が第一になってくるので、どのような連携の仕方がとれるのだろうか。今現在行っている取組を続けていくしかないのだろうか。新たな視点での取組が必要である。食育に関わる場所では、朝食を食べていない子が減ってきていることはいいことだが、目標は0にしていきたい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	生活リズムチェックシートを2回以上活用する。	A	夏休み、冬休みの長期休業中に生活リズムチェックシートの活用を家庭に呼びかけ2回実施した。望ましい生活習慣の確立を目指し更なる取組の工夫を行っていく。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	学校支援ボランティアの活用を15回以上にする。	A	図書ボランティア、学習支援ボランティア等の活用が進んでおり、年間16回の活用であった。図書ボランティアの活用を通して読書環境を整備し、児童の興味・関心を高める取組を進めてきた。今後学習支援ボランティアの活用をより充実させていく。	◎
改善方針		今年度ボランティア募集のポスターを作成し各町会等で掲示お願いしたところ、希望される方もいたことから、今後も啓発活動や呼びかけをより一層工夫し、保護者や地域の方のボランティアによる学校支援活動の充実を図っていく。				
学校関係者評価委員による意見		子どもたちが生活する場所全てがきちんと繋がっている状態にすることで、地域ぐるみで子どもたちを見守ることができるので、この活動は、今後も積極的に続けてほしい。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	向陽中学校の研究会や連携会議等に全教職員が参加する。	A	本校及び向陽中学校の公開研究会に参加し、小中の授業改善についての意見交換をすることができた。また、その際に連携会議を開催し、今後の取組等を確認し合うことができた。	○
		教育環境の整備・充実	ICTの利活用に関する研修を年5回以上実施するとともに、「授業ではほぼ毎日活用している」と回答する職員の肯定的割合を90%以上にする。	A	職員の肯定的回答は100%であり、ICTの利活用に関するミニ研修を6回行うなど目標を達成することができた。今後も授業での有効活用に向け職員間で差が生じないよう、研修の充実を図っていく。	◎
		教職員の資質・能力の向上	全教職員が校外の研修会、研究会に年2回以上参加する。	A	全教職員が年2回以上、校外での研修会や研究会に参加し、研鑽を積むことができた。	◎
		学校運営の改善	学校運営の改善に対する教職員の肯定的割合を90%以上にする。	B	会議の回数や持ち方、日課表の工夫、校務支援システムの活用など、業務の効率化やスリム化を図った。学校運営の改善に関わる肯定的回答をした教職員は89.5%でわずかに目標達成とならなかったが、更なる工夫、改善を進めていく。	◎
		学校安全教育の充実	「学校は子どもの安全を守るために努力している」と回答する保護者の肯定的割合を95%以上にする。	B	肯定的回答をする保護者は92.6%であり、わずかに目標を達成することができなかったが、感染症対策や熱中症対策の徹底、テロルを活用しての危険情報への注意喚起、避難訓練や集団下校訓練等を計画通り実施することができた。	◎
改善方針		今後も学校の教育目標実現に向け、育てたい資質・能力を明確にし、スモールステップでの数値目標を掲げて検証・改善サイクルに基づく改善に努めていくとともに、令和の日本型学校教育を推進する教職員の資質・能力の向上に各種研修会への参加や校内での研修を通じて通じて取り組んでいく。				
学校関係者評価委員による意見		・小中の連携、一貫教育については、更に形あるものとしてより一層推進してほしい。 ・教職員一人一人の力が学校全体の力となるので、これまで以上に共通の目標に向かって進んでほしい。奥沢小学校の今後の発展が楽しみである。				
社会教育に関連する目標 (目標6～8)			図書館、総合博物館、文学館、美術館等の市の施設を全学年が年2回以上利活用する。	A	1年生の給食センター見学、2年生の図書館見学、3年生以上の総合博物館見学や学芸員による授業、遠足における公園利用等、各施設を、各学年2～3回以上利活用することができた。	◎
改善方針		今後も図書館や総合博物館の他、利用できる施設の情報を得て、各学年に応じた有効活用をより一層進めていく。				
学校関係者評価委員による意見		地域や地域外の関係施設等で、ふだんあまり関わらない職種の人たちと関わったり、職業を経験したりすることで子どもたちの感性が広がることも多いので、これからもそのような機会を増やしてほしい。				